

施策評価シート（平成29年度実績評価）

◎ 施策の基本情報

総合計画 中期 プラン	政策No.	1-1	政策名	農林業の振興	政策の 目指す姿	農林業者が安定した所得を 確保しています	施策 主管課	農村林務課	施策主管 課長名	佐々木昭司
	施策No.	4	施策名	木材供給体制の構築	施策の 目指す姿	地元産木材が建築物や燃料 等に利用されています。	関係課名			
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・素材生産から多様な木材利用の総合的取り組みを進める上で必要となる森林経営計画の策定が十分に進んでおらず、計画策定による様々なメリットが活用されていない状況です。 ・効率的で持続的な森林経営を実現するための再造林や間伐、林道の整備が十分ではない状況です。 ・森林・林業が見直されているなかで、市有林1,400haについて、将来を見据えた適正な保全管理と利活用により有益な資源の循環を図っていく必要があります。 ・木材の生産から流通供給までの体制づくりが求められています。 								

◎ 前年度の評価の振り返り

（前年度評価時の今後の方向性）

- ・森林経営計画の策定を促すためには、市の広報や森林組合独自の広報誌等により、策定による優位性や木材需要の現状について、情報提供するとともに、森林整備に対する支援制度を周知し、森林所有者の理解のもと実効性のある経営計画の策定を支援し、策定による計画的な森林施業を推進する。
- ・生産された素材を建築製材、合板製材、チップ材、燃料素材として供給するため、花巻市木材利用促進協議会を中心に県、市、森林組合、チップ製造、建築・設計士会、建設業などの関係機関団体が情報交換等を積極的に行う。

（反映状況）

- ・森林経営計画の策定を進めるため、市有林の経営ビジョンを策定し、市内15区域に市有林の森林経営計画の策定を進め、民有林だけでは面積要件等で計画策定が困難であったが、市有林の経営計画に民有林が共同計画を立てられる環境を整備した。
- ・木材関係機関と意見交換や情報交換を行うとともに、協議会が中心となって木材活用のシンポジウムを開催した。

1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

(1) 良質な木材生産の振興

- 森林経営計画の策定支援
 - ・森林経営計画は、森林所有者や森林の経営の委託を受けた森林組合等が森林経営計画を策定できることから、森林組合等に対して策定の支援を行った。
- 皆伐後の再造林や作業道整備に重点支援
 - ・森林整備事業の再造林、下刈り、作業道整備に対して22%の嵩上げによる支援
- 企業等との連携による市有林の多様な利活用を検討
 - ・花巻市市有林経営ビジョンを策定し、多様な市有林の活用と計画的な森林整備を進める
- 基幹林道の整備
 - ・基幹林道漆山線が県代行により事業採択された
- (2) 木材有効活用の支援
 - バイオマス発電等への木材の安定供給体制の推進
 - ・バイオマス発電への木材の安定供給を図るため、関係機関連携のもと松くい虫被害木の受け入れガイドラインが整備され、受け入れ態勢が整い有効活用された
 - 自伐型林業の推進と松くい虫被害木の資源活用
 - ・自伐型林業を推進するため、山仕事講座や作業道敷設講習会を開催
 - ・被害木の受け入れを推進するため、被害木加算や運搬経費に対して支援
 - 木材産地としての加工流通の検討
 - ・木材利用促進協議会を通じて関係者で情報交換や研修会を行った
 - 特用林産物の生産振興
 - ・きのこ原木の導入支援を行った

2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するののか)	単位	数値 区分	H26	H27	H28	H29	H30	H31
森林経営計画の策定面積	森林施業の効率化とコスト低減、安定した木材供給のために森林所有者が計画する策定面積を示す指標	出典：農村林務課 森林経営計画は市(市内分)と県(市を超える分)の認定となっている	ha	目標値	4,120	5,120	6,120	4,364	4,714	5,064
				実績値	3,559	3,657	4,040	4,324		
素材生産量	製材として活用されるための素材の生産量を示す指標	出典：岩手県(素材生産量調査)	m ³	目標値	27,100	27,780	28,460	55,620	57,288	59,006
				実績値	21,988	37,571	54,832	62,630		

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
B	<ul style="list-style-type: none"> ■成果指標「森林経営計画の策定面積」・・・【達成度b】 計画策定するためには、制度を理解し、森林所有者の同意を得て、面的に集約された5年間の具体的な森林施業計画を立てる必要があり、策定までに時間を要し、結果として目標値を下回った。 ■成果指標「素材生産量」・・・【達成度a】 ・素材生産量については、北上プライウッドの稼働、花巻バイオチップの集材、原木しいたけのほだ木需要が増加したことから、素材生産量が増加した。

